

地域資源の有効活用と知財創造活動による地域活性化について

「日原町シルクの里づくり」事業に関する取り組み経過

島根県鹿足郡日原町

日原町の地域産業施策の歴史

産学官連携・知的財産の活用・地域特産品のブランド化・対中国戦略 平成2年(1990)から今日までの取り組みの軌跡

日原町シルクの里づくり事業の概要

| | | |
|------------------|-------------------------------------|------|
| 平成2年(1990)8月1日 | 産学官連携による「日原町蚕人工飼料育研究会」発足 | 資料 1 |
| 平成4年(1992)10月1日 | 「日原町蚕無菌生産研究センター」竣工 | 資料 2 |
| 平成7年(1995)4月1日 | 人工培養冬虫夏草の生産研究開始 | 資料 3 |
| 平成7年(1995)9月14日 | 「蚕の飼育方法」日原町として特許出願 | |
| 平成8年(1996)5月27日 | 「冬虫夏草の人工培養方法」日原町として特許出願 | 資料 4 |
| 平成8年(1996)11月7日 | 冬虫夏草の商品化スタート(富山化学工業との共同研究) | |
| 平成9年(1997)5月27日 | 「冬虫夏草の人工培養方法」中国への特許出願 | |
| 平成11年(1999)1月14日 | 「冬虫夏草茶」日原町と富山化学工業との共同による特許出願 | |
| 平成11年(1999)4月8日 | 「元気工房」日原町として商標登録出願(登録4406333号として登録) | |
| 平成11年(1999)6月26日 | 「冬虫夏草茶」販売開始 | 資料 5 |
| 平成17年(2005)4月 | 「にちはら総合研究所」設立予定 | 資料 6 |
| 平成17年(2005) | 冬虫夏草に関する日原町と岩手大学の共同研究開始予定 | |

事業の進行と知的財産の関連について(事業実施において感じたこと)

- | | |
|----------------------|--|
| 1 研究開始時の関連特許情報検索の必要性 | 他者特許権の侵害の回避・ <u>研究のスピードアップ</u> ・同業他者の関心度 |
| 2 共同研究開始時の相手方との関係 | <u>権利の確保により円滑な交渉が可能</u> |
| 3 共同研究における権利確保の重要性 | <u>目的意識の明確化と連帯感の醸成</u> |
| 4 共同研究における権利の明確化 | <u>特に発明者の取り扱い</u> |
| 5 知財意識の地域への広がり | 集落ぐるみでの特許申請 |

知的財産に関する今後の課題

- | | | |
|--------------------|---|----------|
| 1 町としての権利保有のメリットは？ | <u>権利を活かした新規事業の創造</u> | 地域経済の活性化 |
| 2 権利保有財源の確保と住民理解 | <u>町の財政上の問題と町村合併により新たな住民理解を得る必要性が発生</u> | |

日原町シルクの里

資料 1



繭と生糸



石西社での繰糸作業

「日原町シルクの里づくり」

・・・産官学連携による取り組みを開始・・・

日原町には中国地方唯一となった製糸工場「石西社」があります。(平成12年2月製糸部門操業停止)

かつては養蚕業が盛んで、ピーク時の昭和30年代後半から40年代前半にかけては島根県内、第1位の生産量を誇っておりました。

当時、蚕は「お蚕さん」と呼ばれ農家の人々は手塩にかけて育てたものでした。そして生産された繭は「白いダイヤ」呼ばれ農家の貴重な現金収入源となっていました。

しかし、近年海外から安価な生糸や繭が輸入されるようになり、また担い手の不足等から養蚕業は衰退の一途をたどっています。

このような状況のなかで日原町では伝統ある養蚕業と製糸業を復興させようと計画し、蚕の無菌人工飼料育等、さまざまな取り組みを、産官学6者による共同研究として始めました。



人工飼料による蚕の周年飼育研究

日原町蚕無菌生産研究会

- 1 研究目的：蚕の無菌人工飼料育技術の確立のための実証実験研究
- 2 研究体制：「産官学」共同研究
日原町・JA日原・石西社
京都工芸繊維大学
住友商事（株）・一迺穂（株）
- 3 研究期間：平成2年（1,990）8月～
平成7年（1,995）3月
- 4 研究内容：餌＝人工飼料
温湿度＝人為的コントロール
飼育環境＝無菌（クラス10,000）
- 5 研究施設：日原町蚕無菌生産研究センター
鉄骨平屋 343 m²
人工飼料製造装置1式



人工培養冬虫夏草（コナサナギタケ）



クリーンベンチ作業



培養作業



培養作業



培養状況

人工培養冬虫夏草の生産研究

- 1 研究目的：蚕を利用した高付加価値商品の開発研究
- 2 研究体制：日原町・JA 日原・石西社・京都工芸繊維大学
- 3 研究者：板垣敬司主任研究員（JA 日原）
陳瑞英（中国籍・京都工芸繊維大）
- 4 研究期間：平成7年（1,995）4月～
平成12年（2,000）12月
- 5 研究内容：蚕の人工飼料育技術を活かし、
蚕のバイオ利用の一環として
人工培養夏草冬虫の生産研究を実施